

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **71**
November
2007

第12回風花祭 第2回潮風祭 大川市民夏まつり



report

海外研修&英語研修&
関連職種連携実習

topic

福岡・軟式野球部が全国優勝
大田原・軟式野球部はベスト8



~第12回 風花祭~

Light our Fire!

10月13日(土)・14日(日)、大田原本校で開催された大学祭『風花祭』。開学の翌年より始まったこの風花祭も今年で12回を迎え、ますますパワーアップ! さまざまなイベント・催しモノ・展示などが繰り広げられ、近隣からも多くの方が訪れました。学生も来場者も笑顔で過ごした2日間の様子をご紹介します!

■屋内展示編



失語症友の会“那須ひまわり会”の作品展示のほか、来場者が体験できるコーナーも。
【スラオ】



展示している写真の中で気に入ったものがあれば、格安でポストカードに。
【写真部】



手話サークル「メビウス」では手話劇を披露。入口には指文字のボードも設置。



和の心でもてなし。「裏千家茶道部」では癒しの空間をプロデュース。



■ステージ編

ステージでは、さまざまなバンドによるライブが繰り広げられた!



カフェテリア棟にアカペラの美しい歌声が響き渡る。



観客の体も自然と動いてしまうほどのキレのあるダンス。



カフェテリア棟2階にて。美しい音色で観客を魅了する。



■模擬店ストリート

焼きそばやたこ焼き、アイスクリームなどの定番メニューから、いも煮やだんご汁といった季節メニュー、さらには、新鮮野菜などのご当地メニューまで品揃え豊富な模擬店ストリート。さまざまな団体が料理はもちろん、テントの飾りや呼び込みにも力を入れていた。また、留学生会では、中国・韓国・ベトナム料理など本場の味を提供。市内や近郊の福祉施設からの出店もあり、バラエティに富んだ模擬店に来場者はお腹も心も満腹に。



■共催イベント



学生たちによる海外研修報告会や「JICA草の根ベトナムプロジェクト」に関する講演など、国際交流や国際協力について考える『国際DAY』



福祉機器を一堂に集め、実際に試すこともできる『いきいきらふフェスタ』。参加型イベントとして行われた車イスダンスの様子。



『オープンキャンパス』も同日開催。未来の国際医療福祉大生がたくさん訪れた。

2 第12回風花祭 大田原本校



4 研修&実習Report

海外研修 (アメリカ、オーストラリア、ベトナム、中国) 英語研修 (福島県British Hills) 関連職種連携実習 (国際医療福祉大学熱海病院)

8 小田原キャンパスレポート 第5回 第2回潮風祭

9 大川キャンパスレポート 第10回 福岡リハビリテーション学部長 満留昭久 / 大川市民夏まつり

10 研究最前線 第4回 大学院教授 鈴木義之

11 IUHW Information 2008年度入学試験のお知らせ / 故高木維彦氏の追悼本を刊行

12 Topics & Columns

国際交流 (タイ・マヒドン大学、ベトナム・チョーライ病院) / 「子どもの村福岡を設立する会」の後援会が発足 / 福岡、栃木の両軟式野球部が全国大会で大活躍 / 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会設立20周年記念式典 / 結ネットワーク計画、公開学習会 (保健医療学部看護学科) / 卒研で韓国研修 (放射線・情報科学科) / 卒後研修会 (言語聴覚学科) / DPC協議会がNPO法人化 (医療経営管理学科) / 総研フォーラム / 本学大学院・大分大学共催のワークショップ / 文科省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択される / 英語のオリジナルテキストを出版 / <コラム> 「私の主張」第5回 (医療経営管理学科教授 鳥羽克子) / <コラム> 「私のおすすめ本」第5回 (薬学部教授 犬飼正俊)

17 施設インフォメーション

<国際医療福祉大学病院> 院内コンサート、ふれあい祭り / <国際医療福祉大学三田病院> 三田がんフォーラム、三田病院・山王病院合同医療連携懇話会 / <国際医療福祉大学熱海病院> 肺をみる会、DMポートの集い、院内学術懇話会 / <山王病院> 糖尿病教室、1泊2日の糖尿病食体験コース / <化学療法研究所附属病院> けんこう教室 / <高木病院> がんセンターがオープン

20 医療福祉チャンネル774



写真左から：「朝日」「みんなで出かけました」「海岸」(以上オーストラリア)。「綺麗な外観。これも「サービス」の1つ」「通訳者の部屋」(以上アメリカ)。



Report of training and practice

研修&実習

夏休みに多くの学生が研修や実習のためにキャンパスを離れて、国内各地へ、さらには海外へと飛び立った。その体験記を指導・引率役の教員の報告とともに掲載する。



- アメリカ
- オーストラリア
- ベトナム
- 中国
- 英語研修
- 関連職種連携実習

アメリカ

よく学び、よく楽しんだ研修
保健医療学部看護学科講師 重久加代子
アメリカ研修チームは六学科二二名の学生が参加する最も大きなグループであり、初めての小田原、大田原合同の研修でもあった。また、テレビによる遠隔での合同壮行会のこと、成田で初めて顔合わせをするということで、引率する教員にとっても不安の多い旅の始まりとなった。

しかし、学生の多くは大学に入学する前からこの研修への参加を希望しており、同じ医療に関わる仲間として支えあい、専門分野はもろろのこと、他職種の領域についても興味を持って研修に取り組んだ。
ボランティア活動では、日系の高齢者ホームなどで折り紙や歌を披露した。一生懸命に交流を深めようとする学生たちの顔はみな真剣で輝いていた。
研修中は、「OSULA」という大阪産業大学の寮に滞在した。二人一部屋、バスとトイレは二部屋で共用するというスタイルで、共同生活を体験した。毎日のように近くのスーパーに出かけて、食品や日用雑貨などの買い物をして、周辺を散歩しながら、アメリカらしさを発見して楽しんだ。

休日は、「OSULA」を起点にして、バスと地下鉄を活用し、ハリウッドやサンタモニカなどの観光に出かけた。滞在中は門限二時を厳守し、安全で地域に密着した、異文化生活を体験することができた。
講義や施設見学を通して、オーストラリア医療の一端を、医療制度や公立病院の問題点も含めて実際に見ることができたことは、学生や私にとって大変貴重であった。今回の研修旅行が、学生にとって今後の成長に大きな糧となることを信じている。また、私自身、彼らと過ごした二週間は個人旅行では得がたい経験であり、彼らの元気と笑顔に感謝したい。

人のあたたかさを学んだ

保健医療学部看護学科二年 五江潤なつみ
今年から小田原校と合同の研修になり、空港で会うまでは海外に行く不安の他に、小田原校の人たちと仲良くやれるか心配だった。しかし同じ医療従事者を目指す者どうし、すぐに打ち解け、楽しい時間を共有することができた。

オーストラリアでは真つ青な空や海、あたたかな人々が迎えてくれた。学校では優しい先生が、丁寧に英語の授業をしてくださり、楽しく、また深く学ぶことができた。

ホームステイでは直前にトラブルがあったが、みんなホストファミリーとの言葉の壁を乗り越え、別れる日には涙で目が真つ赤になっていた。
医療に関しては、オーストラリアは先進国とばかり考えていたが、日本と同じような医療提供だとわかった。その他、保険制度の違いについては、現場の看護師さんに講義していただき、知ることができた。
今回オーストラリア研修に参加し、他

ロサンゼルス青い空の下、二二名の学生は自分たちの力を確認しながら、アメリカ研修で学ぶべき自分の課題や将来を見据えた目標を掲げて、よく学び、よく楽しんだ。この研修は、多くの不安と新たな出現する課題を乗り越え、個人として、またアメリカ研修チームとして、成長する旅となった。

患者と家族への「サービス」

視機能療法学科三年 栗田智史
アメリカには現在、さまざまな病院があり、潰れまいと患者を呼び込み競争し合っている。単に有名な医師を連れてきて技術を提供するだけではない。医療は「サービス」として捉えられ、アメリカではそのことが顕著である。「サービス」は音楽・芸術療法、精神ケア、通訳者、児童虐待などに介在するソーシャルワーカー、児童発育の専門家など、多岐にわたり、患者とその家族は病気や傷害の治療、入院をするときにこれらの特別な「サービス」を受けることができる。これがアメリカの一般的な考えである。
このように医療従事者が「サービス」を提供することによって患者や家族をサポートすることができれば、患者と家族へより近づくことができるのではないかと考える。こういう環境を作っていくことで患者と家族がいっしょに病気を癒すことができる、特別な病気や障害について学ぶ機会もできる。そしてこれによって家族の絆が深まると同時に、家族自体がよりよい保護者・介護者になること

ベトナム

ソニーラン節を踊りました
保健医療学部看護学科二年 和田望美
初めて訪れたベトナムは、自分が想像していたものよりもかなり違ったものだった。
まず驚いたのが、交通量の多さと建物の密集具合である。歩行者が車やバイクの間を縫って平然と歩いている様子に衝撃を受け、家と家が隙間なく建っていて、外壁も決して綺麗とは言えない街並みは未だに発展途上国だということを感じた。

それは街並みだけにとどまらず、病院にも言えることで、患者はベッド数の倍入院しており、二、三人一緒に寝ているのは当たり前で、通路にストレッチャーで寝ている姿も見られた。
病院実習以外では、クチトンネルや証跡博物館などに行つて、ベトナム戦争や枯葉剤の残酷さを目の当たりにした。また、交流を深めるために行われた「JAPAN DAY」では、研修の仲間みんなで団結してソニーラン節を踊ったりし、とても喜んでもらうことが出来た。
引率してくださった大西先生はじめ、チャョーライ病院やティンヤン病院の皆さま、そして二週間を共に過ごした仲間たち……Come on! (ありがと)

とができるだろう。そのためにも「サービス」は必要である。
最後に僕個人としては、日本の視能訓練士の実態を比較でき、とてもいい刺激を受けた。

オーストラリア

医療人に必要な資質にふれて
薬学科教授 角南明彦
オーストラリア研修の学生は八名(大田原から五名、小田原から三名)で、以前はほとんど会ったことのない彼らが、集合の成田空港では既に全員打ち解けていたのには驚いた。
オーストラリア研修の最大の特徴は、ホームステイをしながらの研修であった。ホストファミリーと過ごした貴重な体験は、異文化を知る上で彼らにとって一生の宝になったに違いない。
平日の研修は、午前中はTAFEという学校で英語の語学研修を行ない、午後は医療福祉制度の講義を聴いたり、医療福祉施設の見学を行なった。語学研修の中で医療に携わる人に必要な約十のポジティブ・クオリティを習ったが、既に備わった彼らの資質を現地で垣間見ることができた。向こうで初めて見る多くのものに素直に驚き、感動し、英語の先生やホストファミリーと別れの際には涙、涙の大合唱。ツアーの中で、車酔いをした一人の学生を、「みんなで一緒に行かないとつまらない」と、ツアーから遅れるのも気にせず全員親身になって心配し、回復を待っていた。

中国

英会話を通して国際性を獲得
放射線・情報科学科 中村信明
中国で二週間過ごして、中国の保健福祉事情と文化に触れることができた。中国は人口が多く、市場などは皆活気があり、新鮮な体験であった。
実習を行った北京市内の病院では、中国人のスタッフの方と英語でやり取りすることで、実際の病院実習に加え、現場での英会話の力も養うことができた。初対面の小田原の学生や中国人のスタッフの方とも次第に仲良くなり、日々の生活や実習の時間を共に過ごすことで、かけがえのない絆を感じるようになっていった。

観光や食事などの文化面も非常に興味深かった。万里の長城や故宮では、実際に中国に行った人のみが体験できる独特の雰囲気を感じることができ、本場の北京ダックは研修生全員がその美味を大絶賛したのが印象的であった。二週間の研修の終わりに開かれたジャパネーのときは、非常に盛り上がり、研修生、スタッフの方々が一体となって楽しむことができた。
中国研修を終えて得たものは、中国の保健福祉事情についての知識や情報だけではない。独特の文化や習慣にじかに触れたこと、そしてまた、今回の研修の私の何よりの目標であった英会話の実践を通して国際性を得られたことが貴重であったと思う。

英語研修

English Camp

英語の授業の一環として、福島県天栄村にあるBritish Hillsで英語漬けの生活を送る夏季研修が開講された。

自分から話しかければ、相手も応えてくれる。

保健医療学部理学療法学科一年 金子弘美
私にとって英語は苦手な教科の一つであり、馴染みのないものであった。今までもなるべく近づかないように避けていたが、将来自分がつく職種を考えてみても、これからは英語が自分にとって必要になると思い、イングリッシュ・キャンプに参加することを決めた。とは言うものの、英語が得意ではなかったし、ましてやネイティブの先生たちばかりの授業に参加して、ついていくことができるのか、不安でいっぱいだった。



英国中世の建築様式を再現したゲストハウス(宿泊棟)

ブリティッシュヒルズの授業では、参加するからには積極的に行くこうと考えていたが、オープンニング・セレモニーから早速英語での会話が始まった。英語を聞くことに慣れていなかったため、所々聞き取れないところや理解できないところがあり、質問されても答えに困った。だが、先生たちが分かりやすくジェスチャーを交えて話してくれたので、じきに何とか受け答えができるようになった。何より、先生たちがフレンドリーに接してくださり、「多少聞き取れない箇所があったが、とりあえず発言しよう」という気持ちにさせてくれたのが、とてもよかった。

授業の内容はゲームを取り入れたものが多く、楽しみながら英語で会話することができた。それらのなかには、スノーカーというイギリスのスポーツをやったり、スコーンを作ったりするなど、イギリス文化に触れることができるような授業があったので、イギリスを知るきっかけになった。

先生方の出身国は、イギリス以外にオーストラリアやカナダなど様々で、アクセントの違いやそれぞれの国特有の言葉を教えてもらうことができた。

毎日提出する英文日記や英語を中心とした日常生活の体験を通して、改めて英語で相手に自分の考えを伝える難しさを感じた。その一方で、自分から積極的に伝えるよう努力して話しかければ、相手もそれに応えてくれるという喜びも知った。

私はこの英語研修で、英語を学ぶと同時に、そのほかの色々なことも学ぶことも

ができたので、この経験を今後の自分活かしていきけるようにしていきたい。



シェイクスピアと一緒に記念撮影



食事をしながら英会話

関連職種連携実習

Practice

七月末から八月初めにかけて、本学の附属・関連施設(国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学三田病院、マロニエ苑、栃の美荘)にしないの総合在宅ケアセンター、なす療育園、那須療護園)において関連職種連携実習が行われた。各学科から選ばれた学生たちが学科や専門の壁を越えて一つのチームを結成し、共通の目標に向かって協働しながら、チーム医療を学んだ。

分かりやすく伝えることの難しさ

医療福祉学科四年 鈴木嶺太

自分にできることを増やしたい。それがこの実習を履修した一番の理由だった。他学科と異なり、福祉専門職にとって医療現場は活躍の場の一部なのだが、医療現場と関連職種(連携)を知ることで少しでも自分を磨いておこうと考えた。決して甘く考えていたわけではないが、それは予想以上に難しいことだった。

七月二日から約一週間、国際医療福祉大学熱海病院での関連職種連携実習に臨んだ。綺麗な海と設備の整った大きな病院に心躍ったが、次の日からそんな気持ちはどこかに吹っ飛んでしまった。

大きな病院は多くの患者様に必要とされ、そのために多職種が存在し、共通の目的意識を持って医療サービスを提供する。これは文にすると数十字で表現可能であり、当然のことにも感じられるが、単純に考えてみても分かる通り、大人数で一丸となって何かに取り組むのはとて

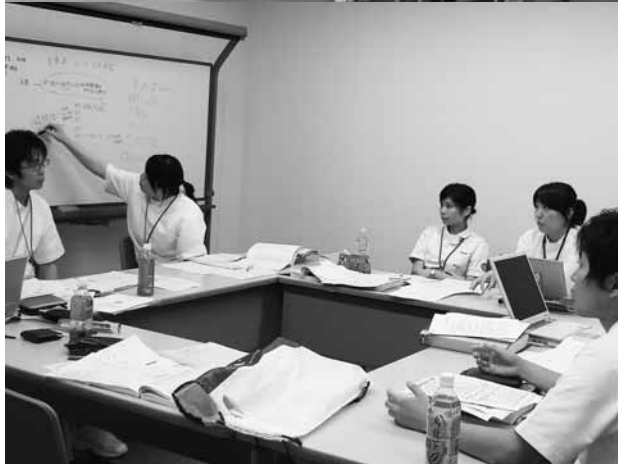
も難しい。それが多種にわたる専門職同士であれば、なおさらである。

私は、実習中に多職種が一人の患者様の現状と今後について話し合う病院のケースカンファレンスを見学させていただいた時にその難しさを感じた。それとにも、まったく異なった業務を担っている多職種が、共通の知識を持ってお互いの情報を共有し、当然のように話し合っていたことに圧倒された。私の場合、八学科八人の学生で話し合い、一人の患者様に対するサービス計画を作成する過程において、福祉の役割として熱海の地域性や社会資源利用の難しさを他学科の学生に分かりやすく伝えることができないという苦心した。そして、患者様のためという同じ目的を持っていても、十分に分かり合えないことに葛藤した。実習では、常に各々が役割を考え情報を共有しながら

話し合っていたが、話をまとめようとしている者、自分の役割を見出せずにいる者、自分の役割を追求している者などがいて、各々が同じペースでアセスメントを行い、患者様に必要なサービスを考え出すのは難しかった。また、目標の設定は、時間をかけて話し合った。その中で、自職種の専門性を思う存分発揮するのに困難を覚えた。

関連職種連携では、自分の知識、情報を分かりやすく他職種に伝えることが必要である。それができれば、心に余裕を持つて少しずつ他職種を尊重できるようになる、と実習を通じて実感した。

最後になったが、お忙しい中、このような貴重な経験をさせていただいた、病院のスタッフをはじめ実習に関わる多くの方々には深く感謝している。



みんなで話し合っサービス計画を作成する

写真右から: 「伝統衣装のアオザイでお洒落」「街の果物屋さん」「病院の昼食(以上ベトナム)。「ジャパンデーでみんな盛り上がりました」「本場の北京ダックは美味でした」「万里の長城にて(以上中国)。



二年目の飛躍 —第二回潮風祭を開催



一日の第一回実行委員会を皮切りに夏休み返上で準備に取り組んだ。開学初年度の昨年以來二度目の開催とあって、第一回潮風祭を経験している二年生を中心に、初めて体験する一年生も二年生に押される形で準備を進めた。八月二〇日にはポスターが完成し、配布を行った。また、一〇月五日には当日配布のプログラムが出来上がり、準備は着々と進んでいった。

ピアノ、篠笛、弾き歌いで幕開け

いよいよ迎えた初日には、教育後援会会員のついでの特例公演が行われた。小田原市在住の音楽家、小澤一さんがピアノや篠笛、弾き歌いを披露、聴衆はその音色に酔いしれた。

学生が主役のイベントでは、軽音部が今年初めて設置した野外ステージでライブを開催、複数のバンドが日頃の成果を披露した。その他、各サークル対抗の「サークルNo.1決定戦」、豪華賞品の当たる「大抽選会」、「ダブルタッチの発表」、昨年度に続いてダンスサークルの発表や「女装・男装コンテスト」などが行われた。

野外に設置した模擬店は学年が増えたことにより出店数が増え、おなじみの豚汁、焼きそば、クレープ、うどん、たこ焼き、じゃがバター、栃木本校OBによるお好み焼きなどで来場者をもてなした。最初はおぼつかない手つきの一年生も数をこなすうちに慣れてゆき、午前中は形



勝利の瞬間—バレーボール部

にならなかつたものが、次第にそれらしく見えてくる。食べてみれば、なかなかの味である。どの屋台も高い人気を集めていた。各学科実習室ではオープンキャンパス同様に学科体験が行われ、医療福祉の世界を志す受験生たちの熱い視線を受けていた。

海外研修の体験を発表

迎えた二日目、夏季休暇を利用して行われた、小田原保健医療学部としては初の海外研修の体験を発表した。

昨年引き続き地元福祉施設からの出店もあり、大学が目指している地域の方々との交流を深めることができた。さらに今年は国際医療福祉大学熱海病院内に今年新たに設けられ、「生活習慣病コーナー」や「救急蘇生法指導」など、プロの技術を体験できるという、他の大学祭ではなかなか体験できないコーナーが来場者の人気を集めていた。

その後、昨年恒例となっていたバレーボール部の招待試合が行われた。今年対戦相手は横浜リハビリテーション専門学校バレーボール部。熱戦の末、男女とも本学部が勝利をおさめ、潮風祭に華を添えた。その他、八階ラウンジを利用して行われたアコースティックサークルの演奏会や、ビンゴ大会などが多数の参加者を集めていた。

（学務課 村山京三）

来年度、完成年次を迎えるにあたって

—学生へのメッセージ



福岡リハビリテーション学部長 満留昭久

考えていることの中で二つのことを述べてみたいと思います。

まず一つは、学生の皆さんと一緒に新しい学部の伝統を作っていくことを喜びたいと思います。

国際医療福祉大学は「共に生きる社会の実現を目指して」を建学の精神とし、三つの基本理念、七つの教育理念に基づいた教育を実践することを約束しております。本学部においても、これらの基本理念や教育理念のもとに、①よき医療人となるために知恵を身につけ、感性を磨く学生を育てる、②よき医療人となるために「ヒト」を学ぶ学生を育てる、③専門職として「生涯を通じて学ぶ習慣」を身につけ、つねに社会のニーズに応えうる、質の高い知識と技能を修得するために努力する学生を育てる、④「チーム医療を学ぶ姿勢」を身につけた学生を育てる—ことを教育の目標と考えてきました。平成二二年三月にはチーム医療に貢献できる新しい時代のセラピストとして第一回の卒業生を送り出すことになりました。

今年から始まる臨床実習、国家試験への準備をはじめ、これから一年半の皆さんの行動が福岡リハビリテーション学部の伝統を創っていくものと考えています。

わが学部の軟式野球部が創部三年目の今年、全国大会に初出場し優勝するという快挙を成し遂げました。多くの学生の胸に、この学部の未来に夢を託し、プライドを持つ

て卒業していく自信を植え付けてくれたと思っております。

次に、QOL (Quality of Campus Life) の向上のために自分の行動を考えてみてほしいと思います。

医療の現場(リハビリテーションでも)ではよくQOL (Quality of Life: 生命の質) ということが使われます。患者さんのQOLを高めるため、医療人は何を考え、どの

ように行動するか考えながら医療を提供することが大事であるとされています。ある小児科医は重度の障害をもつ子どもたちのQOLを「命の輝き」と訳しました。私もQOLを「キャンパス生活の輝き」と訳したいと思っています。学生の皆さんがそれぞれ自分のキャンパス生活が「輝いている」ためにどのような行動をすればいいのか、とさぞき自問自答してほしいと願っています。

「大川市民夏まつり」を学部グラウンドで開催

八月四日午後、朝からの雨も止み、本学部グラウンドにて、「大川市民盆踊り大会」と高邦会グループの夏祭りが融合した「大川市民夏まつり」が初めて開催された。

まつりに先立って、深浦順一言語聴覚学科長による市民公開講座と、日本の放射線治療の権威として知られる、東京大学医学部附属病院の中川恵一准教授を招いての特別講演会が行われた。中川准教授は、がんの放射線治療の最前線について、映像を交えながら講演。メモをとりながら熱心に聞き入る参加者も多数見受けられた。

夕刻から始まったまつりの会場には、家族連れなど約三千人の市民が訪れた。事前準備から当日の運営まで、本学部の学生はまつりに積極的に関わった。着ぐるみ姿で会場を盛り上げ、焼き鳥やたこ焼きの屋台を出店、はっぴを着て大川名物「大川よかたい」を踊るなどの大活躍。定期試験から解放されたばかりで、夏休み最初の大会イベントを存分に楽しんでいるようだった。

会場に設置された舞台では、地元幼稚園児による踊りや太鼓、よさこ

い演舞などの催しが行われた。シークレットゲストで女優の田中好子さんが登場すると、あっとい間に人だかりができ、カメラのフラッシュの嵐となった。大抽選会では、プレゼントとして華を添えて頂いた。

浴衣コンテストでは、リハ学部PT一年の品川剛基君が男性部門にエントリー。浴衣姿で力キ氷早食い対決に臨んだが、惜しくも優勝は逃した。「自信はあったが緊張してしまっただ」と品川君。「来年は大学一の早食いの人に出てもらって、ぜひ優勝してほしい」と、早くも来年に期待をかける。

まつりのフィナーレには、夜空を彩る火花が次々と打ち上げられ、会場に集まった参加者を魅了した。(事務部 吉原理恵)



試験勉強の疲れを忘れて焼きました!



リハ学部女子も頑張りました

●入試日程表

入試区分	学部	試験日	試験地	出願期間[消印有効]	合格発表日
AO方式による入試 [後期]	医療福祉 (医療福祉学科のみ)	12月22日(土)	大田原	11月29日(木)~12月14日(金)	12月25日(火)
大学入試 センター試験 利用入試	前期	全学部	—	12月17日(月)~1月21日(月) 窓口受付:1月22日(火)のみ	2月8日(金)
	後期	全学部		2月12日(火)~2月21日(木)	2月28日(木)
一般入試	A日程	保健医療	仙台・大田原 水戸 高崎・東京 小田原	12月17日(月)~1月21日(月) 窓口受付:1月22日(火)のみ	2月8日(金)
		医療福祉			
		薬			
		小田原保健医療			
		福岡リハビリテーション			
		福岡リハビリテーション			
	B日程	保健医療	仙台・郡山 大田原 東京・大阪	12月17日(月)~1月21日(月) 窓口受付:1月22日(火)のみ	2月8日(金)
		医療福祉			
		薬			
		小田原保健医療			
		福岡リハビリテーション			
		福岡リハビリテーション			
後期	保健医療	大田原	2月12日(火)~3月7日(金) 窓口受付:3月10日(月)のみ	3月19日(水)	
	医療福祉				
	薬				
	小田原保健医療				
	福岡リハビリテーション				
編入学 試験	前期	医療福祉 (医療福祉学科のみ)	大田原	12月1日(土)~12月14日(金)	12月28日(金)
	後期	医療福祉 (医療福祉学科のみ)	大田原	2月1日(金)~2月15日(金)	2月29日(金)

※上記のほか、社会人特別選抜入試、留学生特別選抜入試 大学院入試も別途実施します。
※2008年度入試の詳細は学生募集要項をご確認ください。

研究最前線

第4回

脳の遺伝病に対する新しい治療法

「ケミカルシャペロン療法」の開発
鈴木義之教授

大学院理学療法学分野
リハビリテーション・学分野

本学で行われているすぐれた研究を紹介する「研究最前線」の第四回は、鈴木義之教授が進めている、脳の遺伝病に対する新しい治療法の研究開発を取り上げる。

細胞・ライソゾーム・遺伝子

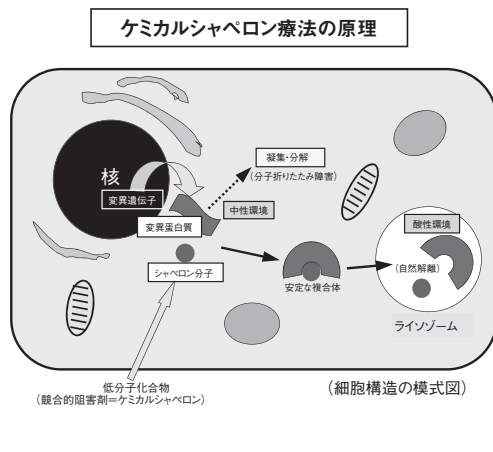
私たちのからだは5兆から10兆の数の細胞が、肝臓、心臓、脳をはじめとする多くの内臓・器官を作っている。それぞれの細胞は極めて複雑な組織体である。その中で、細胞のいわば消化器官にあたるのがライソゾームと呼ばれる小さな空胞である。細胞の中で不要になった物質、あるいは細胞の外から取り込んだ物質はここで分解され、排泄されるか再利用される。

ライソゾームでは何十もの酵素が一定の順序でこの分解を進めている。酵素という蛋白質は、細胞の核に存在する遺伝子を鋳型として合成される。何らかの理由で遺伝子の構造に異常が起こると(突然変異)、蛋白質構造の異常・機能障害を引き起こし(酵素欠損)、不要な物質が細胞内に過剰に蓄積する。その結果、脳をはじめ、からだの機能に変調が起こり、特に乳幼児期に重篤な脳の遺伝病(ライソゾーム病)として発症する。

遺伝病治療の最終目標は、異常な遺伝子を修復することである。しかし全身、特に

脳細胞の遺伝子を治療することは、現在の技術では見通しが立っていない。そこで鈴木教授はこれまでとは違った発想で、ライソゾーム病をモデルとして、遺伝病に対する治療法の研究開発に取り組んだ。その原理は、酵素が分解する物質(基質)類似の低分子化合物をシャペロン(注を参照)として経口投与することである。

鈴木教授のグループは、ライソゾーム病における酵素欠損とは何か、という問題をも分子や細胞について調べた。その結果、①酵素が合成されない、②合成された酵素に活性がない、③合成された酵素に活性はあるが、不安定で不活性化される、という3つの場合があることが分かった。



マウス投薬実験風景

提供すれば、働くべき場所で酵素活性を発揮し、細胞の機能を修復することができるとは思えない。鈴木教授はここに病気の可能性を見出したわけである。しかも③の病変を持つ患者数が意外に多いことが分かった。

ケミカルシャペロン療法

鈴木教授のグループはこの治療原理をまずライソゾーム病の一つ、ファブリー病に試みた。患者由来の培養細胞にガラクトース(糖の一種)を投与したところ、酵素活性が著しく増加した。しかしガラクトースを経口摂取しても、腸から吸収されると体内ですぐにほかの物質に変換され、シャペロンとしての機能を発揮することは期待できない。そこで別のDGLという試薬を試したところ、シャペロン効果が期待できることが分かった。ただしファブリー病は脳の病気でないので、次に、古典的な脳の遺伝病GM1ガングリオシドーシス(酵素βガラクトシダーゼの欠損症)を取り上げた。患者由来の細胞やマウスを使い、多くの実験の結果、NOEVというケミカルシャペロンが構造異常のある変異酵素を活性化するのに有効であることを確認した。

マウスに経口投与したNOEVは、腸で吸収され血液に入り、脳を厳重に保護している血液脳関門を通って脳組織に到達し、変異酵素を安定化、活性化し、異常に蓄積した基質(脂質)を分解したのである。しかも数ヶ月の投与実験ではマウス個体に対する副作用、毒性は見られなかった。現在、最適の投与量や投与方法を検討中である。更にイヌやサルなど大動物での実験を経て、ヒト患者への治療の試みを計画中である。

ケミカルシャペロンの投与によって酵素の基質処理能力がある程度以上のレベルに到達すれば、理論上は病気の発症を著しく遅らせることができる。人工的な実験条件では、細胞内酵素活性が正常細胞の平均活性の8~10%になれば、発症年齢が無限大になると予測できる。即ち、発症年齢が個体の寿命を超える(ということ)は、生存中は発病しない(すむ)可能性が開かれたのである。現在まったく治療法のない遺伝病の一部でも、この方法で症状の軽減、予防が可能になれば、そのことの持つ学問的、社会的意味はきわめて大きい。

鈴木教授のグループは、ライソゾーム病という、細胞内分子病態がかなり明らかにされた疾患群を対象に研究を進めてきたが、他のカテゴリーの遺伝病においても、その分子病態が明らかにされれば、ケミカルシャペロン療法の原理が応用できるはずである。今後、多くの遺伝病についてケミカルシャペロン療法が検討され、実用化されることを期待したい。

(構成・出版広報室 山内邦雄)

IUHW: Information

入学試験のお知らせ

二〇〇八年度
AO入試を皮切りに二〇〇八年度入試が始まりました。入試日程は表の通りです。お問い合わせは栃木県大田原キャンパス入試事務室(☎〇二八七二四三三〇〇)までお寄せください。(入試事務室)

医療福祉学科で編入学試験を導入

医療福祉学部医療福祉学科では、社会

福祉士、精神保健福祉士の資格取得を目指す人に向けて二〇〇八年度から新規に編入制度を実施することになり、志願者の相談受付を開始しました。

医療や福祉の現場では、患者や利用者の深い理解と支援のために、ダブルライセンスが有効に機能する時代となっており、この編入制度は、看護師や作業療法士、言語療法士、介護福祉士など、対人援助業務の専門資格を持っている人や資格を取得見込みの人などを対象として、もう一つ社会福祉の資格を持ちたいと考

えている人たちに対応するものです。入学は原則として、三年次編入としますが、本年度は、二年次への編入も実施します。

既に取得している履修科目について、どこまで認定ができるかなど、事前の相談が必要です。その上で面接試験を受けていただきます。なお、本学卒業生については、入学金が免除になります。(医療福祉学科)

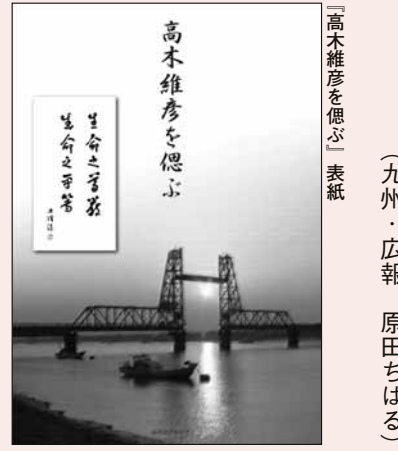
故高木維彦氏の追悼本が発行されました

二〇〇六年六月一日に他界された高木維彦氏は、国際医療福祉大学評議員や医療法人社団高邦会会長を務められました。国際医療福祉大学・高邦会グループの礎を築き、またその発展に力を尽くしてこられました。氏の足跡をまとめた追悼本『高木維彦を偲ぶ』生命の尊厳 生命の平等』が、一周年にあたって、このほど発行されました。

この本は、医師として地域医療に生涯を捧げてきた故人を偲ぶとともに、一医療人としての歩み、そして高邦会グループ(医療法人社団高邦会、社会福祉法人高邦福祉会、学校法人高木学園)の歴史を振り返る内容となっています。

また、高木維彦氏の友人をはじめ、高木病院の患者さまなどからも、たくさんのお手紙が寄せられました。同病院の創設時を知る職員の話も盛り込まれています。時代が垣間見える貴重な写真も数多く掲載されています。ぜひ、一度ご覧になってみてください。

(九州・広報 原田ちはる)



国際交流—タイ、ベトナム

タイ—マヒドン大学と本学大学院との協力協定に調印

タイ王国のマヒドン大学公衆衛生学部と本学大学院が、助産学および関連分野で教育的協力や共同研究等を進めることになり、七月二三日、マヒドン大学において協力協定の調印式が行われました。本学からは高木理事長、開原大学院院長、小島国際交流センター長、江幡助産学分野責任者以下教員四名を含む計十名が、マヒドン大学からはピッタヤ公衆衛生学部長以下十数名が参加しました。調印式はピッタヤ学部長の歓迎スピーチで始まり、覚書署名、開原大学院長の返礼スピーチのあと、今後の交流について意見交換を行いました。夕方からはバンコク市内のホテルで高木理事長招待の晩餐会が催され、両大学の関係者が和やかな友好の時を過ごしました。

本学大学院では助産師教育の目標の一つに、将来海外の母子保健向上に貢献できる人材の育成を挙げており、カリキュラムには国際母子保健活動論や海外母子保健実習を設けています。この海外実習を計画するにあたり、アジアでの実習場所を検討していましたが、マヒドン大学と親交の厚い小島センター長や事務局の



写真上：調印式を終えて。前列左から4番目より右へ、ピッタヤ学部長、開原大学院院長、高木理事長、江幡教授、小島教授。



写真左：エンパワメント活動——チョーライ病院前の信号のない道路を車いすで横断する。

支援もあり、協定締結に至りました。既に助産学分野の学生二名がマヒドン大学の協力の下、二ヶ月間、バンコク市内や地方の病院、保健センターで有意義な母子保健実習を修めることができました。九月中旬にはマヒドン大学副学長以下六名の教員が、東京キャンパスや山王病院大田原本校や国際医療福祉大学病院を訪問されました。今後、学生間交流や教員の研究・研修を通し、両大学の交流が充実したものになることを願っています。

ベトナム—JICA車の根

プロジェクト

近年のベトナムでは、急速な経済成長にともない、生活習慣病や交通事故による頭部外傷といった身体障害者が増えて

います。一方で、そうした身体障害者の生活を支援するリハビリテーション専門職は競争中から今も理学療法士のみで実践されており、その内容も不十分な状態でした。こうした状況にある身体障害者の社会参加を支援するため、本学が十一年間交流を続けているホーチミン市のチョーライ病院にJICA車の根技術協力プロジェクトを二〇〇六年に立ち上げました。〇八年末までの三年間で、チョーライ病院理学療法部に設立した身体障害者支援センターで、チョーライ病院周辺に在住する身体障害者（特に脳卒中及び

「子どもの村福岡を設立する会」の後援会が発足

福岡リハビリテーション学部の満留昭久学部長が理事長を務めるNPO法人「子どもの村福岡を設立する会」(http://www.murakumatsubo.org)を経済的に支援するための後援会が、六月一九日に福岡市内のホテルで設立総会を行った。

「子どもの村福岡を設立する会」は、虐待などさまざまな事情から家族と暮らせなくなった子どもたちを、より家庭に近い環境で育てるための「子どもの村」を福岡市内に設立するというもので、二〇〇九年四月からの入居を見込んでいる。村では、「設立する会」が作り上げた独自のプログラムによる研修を受けた実の親に代わる「育親」が、子ども達の養育を担いながら、心のケアなどにあたる。

後援会には、九州電力など地元大手企業を中心に七社二団体が参加する。設立総会では、後援会会長となった松尾新吾九州電力会長が「目を覆いたくなるような子どもへの虐待のニュースには、居ても立っても居られなくなる。意義ある事業をぜひ成功させたい」と挨拶した。

「子どもの村」は国際団体キンダードルフ(本部・オーストリア)が活動を広め、現在は一三〇カ国に四〇〇以上の村が設立されているが、日本国内では初めての取り組みとなる。満留学部長は、「育親の研修もスタートしており、ぜひ良い人材を育て、子ども達をサポートしたい」と村作りへの期待を寄せている。

(九州・広報 原田ちはる)

福岡、栃木の両軟式野球部が全国大会で大活躍

福岡野球部は優勝！
栃木野球部はベスト8！

おめでとつ、創部三年で初優勝

福岡リハビリテーション学部軟式野球部は、第三〇回全日本学生軟式野球選手権大会(全日本学生軟式野球連盟主催)に初出場し、優勝するという快挙を成し遂げた。学部開設と同時に創部された三年目のチームが強豪大学を制しての全国制覇に、学部全体が喜びに沸きたった。

大会は、愛知県豊田市で八月一九日から四日間、厳しい暑さの中で行われた。初戦の成蹊大(東京)戦は投打がかみ合い八対一で圧勝。二回戦は大会屈指の好投手を擁する福山大(広島)に三対二で競り勝った。これで波に乗り、優勝候補の中央大(東京)には六対五で逆転勝ち、決勝進出を決めた。地元名古屋商大との決勝戦は、二回までに



栄冠に輝く福岡野球部のメンバー



写真上：福岡野球部の優勝を決めた佐々木聖馬君の一打
写真右：栃木野球部のエース鎌田祐一君(HS1年)の力投



開会式(8月6日、八王子市民球場)に臨む栃木野球部

四点をリードされる苦しい展開となったが、リリーフしたエース大迫真也君(OT三年)が後続を断つ力投。打線もこれに応え、七回に宮崎大地君(PT一年)の一打で同点。九回には佐々木聖馬君(PT一年)がタイムリーを放つてついに逆転、六対五で勝利した。

キャプテンの加来剛君(PT三年)は最優秀選手賞を受賞、「せっかくの全国大会なので楽しんで野球をしたと思う大会に臨みました。優勝できて驚いていますが、素晴らしい思い出ができました」と語ってくれた。

一〇月二日には祝勝会が盛大に行われ、高木邦格理事長もお祝いに駆けつけた。創部当時、学生ラウンジでユニフォームを手作りしていた部員たち。練習環境にも恵まれず、苦勞の連続だったが、学業と部活動を見事に両立し、栄冠を勝ち取った。その努力に敬意を表し、部員たちを心から祝福したい。(福岡リハビリテーション学務部 横溝公紀)

かっこよかった先輩にありがとう。頼もしい後輩よ、頑張れ。

医療福祉学部医療福祉学科三年

軟式野球部員 石坂哲弥

新チームがスタートしたのは去年の六月だった。先輩たちの代が終わり、自分たちのチームを作って秋季大会に出るまでには二ヶ月弱しかなかった。チームの方針を決める初めてのミーティングでは、それぞれが好き勝手に意見を言うのでまったくとまららず、少し不安だったが、バラバラな中にも「全国大会に行きたい」という強い思いは一致していた。

野球部に入ったのは、軽く汗を流すような気持ちだった。酒の席で誰かがそんなことを言っていたのを覚えているから、そんな気持ちで入部した人は少なくないと思う。こんな自分たちを本気にさせたのが先輩たちの野球に取り組み姿勢だった。みんなで話し合い、本気で野球を楽しんでいる先輩たちはかっこよかった。後輩たちが自分たちを見て、同じような気持ちになってくれれば、うれしい。

北関東大会を一位通過し、全国大会(全日本大学軟式野球連盟主催)出場をかけた準決勝にも勝って、念願の全国大会に出場できることになった。

八月六日の一回戦の相手は昨年度優勝地区代表の岐阜聖徳大学。学長はじめ多くの先生や父兄、卒業生、在学生の応援を頂き、大きな守りのミスもなく、三対〇で快勝した。二回戦は東北地区代表の強豪東北福祉大学と対戦。一対〇のリードを九回に追いつかれ、延長十回表にも一点入れられたが、その裏に二点を取っ

全国私立リハビリテーション学校連絡協議会設立二〇周年記念式典に本学関係者が参加

逆転サヨナラ勝ち。チーム一丸となつての勝利だった。準々決勝の千葉商科大学戦は〇対三で敗れてしまったが、ベスト8の成績を残すことができた。

さて、後輩たちは、自分たちが全国大会に出たため、わずか半月で新チームを作り上げねばならない。さらには、自分たちが残した全国ベスト8という成績を背負っていくので、自分たち以上に大変なことをやっていかなくてはいけない。しかし、それをできるメンバーだと確信している。自分たち以上に強く楽しいチームを作るよう頑張つてほしい。

八月三日、ホテルニューオータニにおいて、「全国私立リハビリテーション学校連絡協議会設立二〇周年記念式典」が行われ、本学からは当会副会長を務める高木理事長や学部長・学科長らが参加した。当会はリハビリ関連学科を持つ私立・短大・専門学校がよりよい専門教育を目標に活動しており、現在の会員数は一六八校にのぼる。式典では、厚労省の宮島・大臣官房総括審議官が医療保険介護行政とPT・OT・STの役割をテーマに記念講演を行い、高木理事長がリハビリ教育における当会の役割と意義に触れ開会の辞を述べた。また、杉原学部長と深浦学部長もOT・ST両協会会長として祝辞を述べ、各団体との交流も深まる機会となった。

(出版広報室)

看護学科 結ネットワーキング計画 第一報

皆様、こんにちは。私は本学の卒業生で、看護学科リクルート係をしている藤原いづみです。看護学科では、二〇〇五年にリクルートシステムを立ち上げました。卒業生の本大学院進学や教員としての道を開き、母校の発展のために活躍できる場を提供することが目的でした。また、二〇〇六年には《結ネットワーキング計画》を構築し、卒業生と母校をつなぐシステムとして動き始めています。今年度は卒業生に定期的にメルマガを配信するとともに、在学中の四年生にもこのシステムについての情報提供をしています。

私の事を少しお話しします。卒業後、地元仙台で看護師として働いていた私と母校をつなぐものの一つが、大学の広報誌IUHWでした。久しぶりに手に取ったIUHW 68号に恩師が書いた《結ネットワーキング計画》の記事が載っていたのがきっかけで、今年度看護学科の教員として再び大田原に戻ってきました。現在、看護教育の面白さを日々感じつつ働いています。

医療系大学の中でも特に看護系の学部増設が続く中、本学は一三年目を迎へ、卒業生は総数で六五〇〇名を超えたそうです。キャンパスが増設され、学ぶ場が全国に広がっていることをとても嬉しく思っています。この成長し続ける本学科の様子を受験生だけでなく、めまぐるしい変化を遂げる医療界で活躍する卒業生にも伝え、後輩を育てると同時に、キャリアアップへのお手伝いができるように

医療記録の原型と言えは、日本最古の歴史書『古事記』の中に、それに近い記録が見られると言われる。下って、現在、京都大学附属図書館が所蔵する一般貴重書の中に、平安末期から鎌倉初期にかけて描かれた『病草紙』と言う古典籍がある。これを知ったのは、知人の医大教授が医療関係者研修会で、記録に纏わる話としてこれをテーマに講演した内容が医学専門誌に掲載され、目にしたのがきっかけである。

私の主張 第6回 新生、日本診療情報管理士会

鳥羽克子 医療経営管理学科教授 / 日本診療情報管理士会会長

「病草紙」を医療記録と並列で述べるのはいささか乱暴な気もするが、病を得た者の切なさや、辛さ、悲しみが滑稽な描写の中から滲み出ている、一つ一つの画面から、その場の雰囲気や状況、患者の息遣いまでも掴めるほどのリアルさが画風全体を通して伝わってくる。そこでは九世紀余もの時を越え、京都の風俗や庶民の生活がばりか、それぞれが置かれた医療環境や病への人々の考え方、対処の仕方さえも知る事が出来る。これは当時の医療への姿勢や公衆衛生的な面を考へる上からも興味深い絵巻物となっている。更に、脇に添えた詞書が、れっきとした疾病の解説、即ち医療の記録の体裁をなしているから面白い。こうした表現法が実は最終的に相手的確に事実を伝える事を目的とする記録記載要件、「真正性」、「概括性」、「原本性」を満たしている点にも興味を覚える。正式に医療記録と言えよるか否かは別として、診療情報管理士として病院で診療記録を整備し、真正な記録とは何か、適正な情報提供とは何かに心を注ぎつつ仕事をし、今ではそれを教育の場で若者に伝えようとしている者としては、むしろこんな記録に強い関心を

していきたくないと頑張っています。
(看護学科助手 / 看護学科卒業生 藤原いづみ)

看護学科が公開学習会を開催

保健医療学部看護学科では九月二日(土)、公開学習会を開催しました。テーマは「プレゼンテーションの技をみがこう!」とうたい、なんと、八七人もの参加者を迎え、終日興奮のひとときを過ごしました。推定二〇代から推定六〇代まで、パソコン画面を覗み、講義や演習の成果を存分に発揮して、素晴らしいプレゼンテーションの案を練りました。

ここで中身を紹介しますと、「プレゼンテーションの基礎」の講義、「演習①②」プレゼンテーションとプレゼンテーションのツール「プレゼンテーションの実践」で、栄光ある講師役は、松澤、田尻、村松、川野、臼井でした。

そもそも、六〇人の定員で計画したものが、定員を大きく上回り、約二〇〇人の方達のご期待に来年こそは添いたいと



プレゼンテーションの技を磨く参加者

看護学科一同頑張っております。
(看護学科FD係一同)

卒研で韓国研修

放射線・情報科学科の山本研究室では九月一七日から二〇日までの三泊四日、国際研修の一環として、韓国の高麗大学と延世大学永東セプランズ病院に見学実習に出かけた。高麗大の放射線技術学科では実験設備を見学し、日韓合同講義と称して日本語での講義を韓国語に訳して頂きながら九〇分の授業を行った。高麗大の学生からは非常に活発な質疑があった。セプランズ病院では、学生を検査室に個別に配置し、丸一日間の病院研修を実施した。英語を主体に行ったが、日本語の上手な技師さんもいて、スムーズに研修が行えた。両国の相違を詳細に検討し、今後の医療技術に活用してもらいたいと思う。最後に、折角の韓国だからと焼肉とキムチをたくさん食べ、全員が体重が増加したことは言うまでもない。

(放射線・情報科学科講師 山本智朗)



延世大学永東セプランズ病院の皆さんと

川渕孝一・東京医科歯科大学大学院教授が包括支払い制度をめぐる現状と課題について講演。後半は、同協議会政策提言部会がまとめた同日公表した「DPCのあるべき姿への提言」をテーマにシンポジウムが開かれ、松本高雪・協議会政策提言部会長、古城資久・副理事長、事務局長の高橋泰学科長の三人が参加、DPC制度の定着に向けた提言の狙いや課題などを熱心に討議した。会場は約一五〇人の病院関係者らの熱気に包まれ、「医療現場のデータを根拠に、望ましい医療のあり方を考えることの重要性と今後の医療制度の流れを自ら考えていくことの大切さを実感した」という感想も聞かれた。
(医療経営管理学科准教授 山本康弘)

第九回卒後研修会を開催

言語聴覚学科では八月五日、大学院東京サテライトキャンパスで卒後研修会を行った。同窓会と学科では毎年この時期に卒後研修会を開いており、今回は約五〇人の参加があった。

午前は中村公枝先生(国立身体障害者リハビリテーションセンター学院)が小児聴覚について講演をされた。症例のビデオを多く使用し、臨床に即したわかりやすい講演であった。聴覚領域に限らず、STとしての家族への関わりなど、他の領域で活躍中の卒業生にとっても臨床を振り返るいい機会になった。昼食時の懇親会では、近況を一人ずつ報告し、情報交換を図った。午後は本学科の柴本勇准教授が摂食・嚥下について講演を行った。嚥下のメカニズムに関して新しい視点を提示し、示唆に富んだ講演であった。
(言語聴覚学科助教 谷合信一)

日本DPC協議会がNPO法人を取得

病院経営の要となるDPC包括支払制度の普及を目指す日本DPC協議会(事務局・医療経営管理学科)は、さる九月、念願のNPO法人の認証を受けた。

DPC協議会は、今年四月から札幌など全国四都市でDPCセミナーを展開、総括セミナーを一〇月二〇日に東京で開催した。前半は、宮島俊彦・厚生省総括審議官が医療制度改革の展望について、

労働省医政局研究開発振興課長、津谷喜一郎・東京大学大学院薬学研究所教授、伊藤澄信・国立病院機構本部研究課長、グラクソ・スミスクライン社の永田博氏らが参加し、日米の治験事情に関して活発な意見交換を行った。懇親会では、これを機に「フィラデルフィア科学大学と定期的な交流プログラムを行っては」という双方の提案があり、今後の発展が楽しみだ。

第二回は九月一五日にやはりアミティ乃木坂で「DPCの課題と展望」と題して行われた。DPC準備病院への手上げが今年七〇〇病院以上にも達し、DPCに対する急性期病院の関心が高まっているなか、入場定員一六〇名を超える参加応募があり、主催者としてはうれしい悲鳴をあげた。宇都宮啓・厚生労働省保険局医療課企画官、西岡清・横浜市立みなと赤十字病院長(中医協DPC評価分科会会長)、本学から医療経営管理学科長の高橋泰教授、薬学部の池田俊也教授が参加し、フォーアを交えて活発な討論が交わされた。宇都宮企画官によれば、DPCの調整係数は二〇一〇年には廃止されることである。新たな係数として「医療の質に基づく支払い(P4P: Pay for Performance) 係数を」というのがわれわれ総研メンバーの主張である。

総研では今後ともさまざまな医療福祉のトピックスを取り上げてフォーラムを開催していく予定である。ふるってご参加のほどをお願い申し上げます。
(国際医療福祉大学三田病院副院長 / 国際医療福祉総合研究所長 武藤正樹)



七夕飾りの下での美しいハーモニー

国際医療福祉大学コーラス部による院内コンサート

七月七日(土)午後二時より約三〇分間、一階総合ロビーにおいて、国際医療福祉大学コーラス部による院内コンサートが行われました。大勢の外来患者様や、入院患者様に来ていただきました。

偶然にも七夕と重なったこともあり、託児室が毎年作っている、短冊等で飾られた竹をそばにおいてのコンサートになり、なかなか趣のあるものでした。曲目も七夕にちなんだ曲を中心に六曲、そしてリクエスト一曲を含む計七曲を演奏し



努力賞をいただいた衣装

ふれあい祭りに参加

七月二十八日(土)、地元那須塩原市で毎年恒例の「ふれあい祭り」が開催されました。国際医療福祉大学病院も例年通り、マロニエ苑と合同で参加し、JR西那須野駅前の主要な通りを踊り歩きました。馬にウサギに扮げオヤジにセーラー服といった衣装に対し、審査員の印象が良かった(？)のか、昨年同様努力賞をいただきました。統制の取れた踊りを披露していた栃の実荘(賞なし)にも勝る結果で、何か申し訳ない気もしたのですが、

(総務 石崎和彦)



講演する北島政樹院長

ち「病院紹介ビデオ」で病院の紹介がなされ、高木邦格理事長、谷修一学長、北島院長の挨拶で開会と

国際医療福祉大学三田病院

七月三日、ホテルニューオータニにおいて、第五回となる「三田がんフォーラム」と、恒例の「三田病院・山王病院合同医療連携懇談会」が開催されました。医療連携懇談会は承継後毎年開催しており、今年で三回目、昨年からは山王病院と合同で開催しています。

今回は四月に院長が交代となったため、新院長である北島政樹先生の紹介を兼ね、幅広くご案内をしたところ、昨年を大幅に上回る三〇名ほどの地元医師会および医療連携先の先生方にお越しいただき、交流を深める良い機会となりました。

同時開催いたしました第五回三田がんフォーラムは、三田病院医局長である池田徳彦教授の司会のもと、北島院長(消化器センター長)が「低侵襲・個別化癌治療の最前線」をテーマに、最新のがん治療を紹介しました。

続く医療連携懇談会では、開会に先立ち「病院紹介ビデオ」で病院の紹介がなされ、高木邦格理事長、谷修一学長、北島院長の挨拶で開会と



医療連携懇談会の会場風景

なりました。高木理事長の挨拶の中では、四月に新しく本学大学院に就任した金澤一郎教授(現副大学院長、日本学術会議会長、元国立精神・神経センター総長)も紹介されました。その後、ご来賓を代表して港区医師会会長の厚治秀行先生のご挨拶、独立行政法人国立病院機構理事長の矢崎義雄先生の乾杯の音頭と続きました。

会は途中、正面ステージを利用して、ビデオでは紹介できなかった医師紹介などを盛り込みながら、盛況のうちに進み、慶應義塾大学医学部部長の池田康夫先生の中締めまで、終始活発な交流が交わされました。

今後、港区にある三田病院と山王病院がさらに連携し、地元医師会をはじめとする多くの皆さまのご期待に応えるべく全力を尽くしてまいります。

(総務企画課)

施設インフォメーション

News: Affiliated Facilities

附属病院

国際医療福祉大学病院

文科省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択される

本学と自治医科大学とが連携して行う「全人的ながん医療の実践者養成」が、平成一九年度文科省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択された。この「養成プラン」は、大学院において質の高いがん専門医や薬剤師などの医療専門職を養成する優れたプランに対して財政支援を行う、文科省の新規事業である。

「全人的ながん医療の実践者養成」は、地域において総合的な保健医療福祉活動に従事できる薬剤師や放射線技師などの医療専門職を養成している本学と、医師・看護師を養成している自治医科大学が連

携し、がん医療において重要な「患者を中心としたチーム医療に熟知した、高度な臨床能力と研究能力を有した医療人」の育成を行う。そして、両大学の位置する北関東圏のみならず、本学の遠隔教育システムと自治医科大学医学部卒業生ネットワークの活用により、全国的な地域がん医療の底上げを目ざしている。

本学大学院修士課程では、がん治療放射線技師を養成する「がん治療放射線技師コース」、がん専門薬剤師を養成する「がん薬物療法認定薬剤師コース」、腫瘍登録の指導が可能な診療情報管理士を養成する「がん登録コース」の三つのコースを来年度から開設する。詳細については本学のホームページをご覧ください。また、お問い合わせは西留までお寄せく

ていただきました。一人一人による美しいハーモニーが病院内に満ち溢れ、とてもすがすがしい気分になれたのではないのでしょうか。

今後行う予定ですので、是非お立ち寄り下さい。

(総務 田代靖)

私のおすすめ

第6回

オリガ・モリソワナの反語法
米原万里著
集英社文庫(二〇〇五年、七四三頁)

はじめは退屈するかも知れない。しかしふと気がつく、推理小説のように次から次へと出現する謎とその謎解き、そして新たな謎という展開にいつしか吸い込まれている自分に気がつくはずである。ロシア語通訳をしている主人公志摩は少女時代ブラハで過ごした経験があり、その時のバレエ教師オリガの半生に興味を持つ。数十年後再びチエコに飛び、当時の旧友と一緒にオリガの謎解きを始める。その中で動乱のチエコやスターリン下のソ連でのオリガを含めた人々の苦難から、いかに人間社会が不条理であるか、痛いほど知らされる。しかしそのような

薬学部教授 犬飼正俊

不条理に喘ぎながらも、必死に生きぬく人々の人間性のひだをその一本一本まで詳細に描写することで、逆に救ってくれる。当初、物語に「見無意味と思われたオリガの反語法が後半謎解きに重要性を持つようになる様は圧巻である。フィクションでありながら、ノンフィクション。歴史は何事もなかったかのように今も流れているが、歴史に翻弄され犠牲となって死んでいった人々から見れば、歴史はそこで終わってしまった。これが作者の伝えたいことだったのではないだろうか。しかしこの小説は陰湿ではない。主題はあくまで謎解きである。暗い歴史は利身のつま。至る所に出てくるオリガの反語法が小気味いい。残念なことに著者の米原万里は二〇〇六年五月に逝去している。まことに惜しい人物を失ったものである。

だんご (gan-info@iuhw.ac.jp)
東京事務所 出版広報室)

本学大学院・大分大学共催のワークショップが実施される

七月二十八日と八月二十五日の二日間、本学大学院と大分大学医学部創薬薬理学講座が共催して、わが国における治験や臨床試験を審査するIRB(臨床試験審査委員会)の質の向上に寄与するためのワークショップ「第一回被験者保護とIRBのあり方」が実施された。

第一日目は、臨床試験に関わる各方面の専門家の立場から「被験者保護とIRBのあり方」について、医薬品機構の西村先生、東邦大学の川合先生、国立病院機構の森下先生、ささえあい医療人権センターIOML代表の辻本先生、弁護士三輪先生に講演いただき、約一〇〇名の参加者があった。第二日目は、少人数のグループで実際に模擬課題を審査する「模擬IRB」を体験しながら、被験者保護について、医療の場で働いている多くの職種の方々が交流し、共に学び理解を深めた。

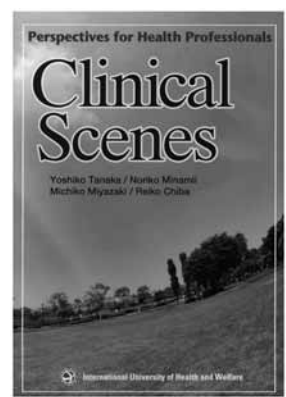
(大学院准教授 北川明)



模擬IRB

英語のオリジナルテキストを出版

本学の田中美子教授、南井紀子教授、宮崎路子准教授、千葉礼子講師が開発した医療系総合大学の学生向け英語学習用テキスト《Clinical Scenes》が今年の三月末、マクミランランゲージハウス社より出版された。このテキストは、今年度より英語B(LL)の授業で本学の全ての一年生が使用している。市販のLL用の教材とは違い、医療福祉の英語という一見難しい英語を取り扱いつつ、本学の歴史や付属施設、学科に関することなど、事実をもとにして作っているため、学生にとって身近で親しみやすいテキストとして好評を得ている。全般に関わるユニットと、各学科に特化したユニットがあり、それぞれのユニットは会話や読み物形式の本文を中心とし、語彙・語句、文法的知識、解説や練習問題などで構成されている。英語でのコミュニケーション能力育成に加えて、専門分野への橋渡しという重要な役目も担っている。このオリジナルテキストが本学の学生のより一層の英語力向上に寄与することを願っている。(総合教育センター 語学教育部)



(Clinical Scenes)

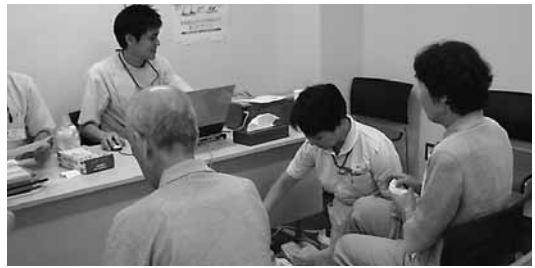


「けんこう教室」を開催
 化学療法研究所附属病院ではリニューアルを機に、地域住民の方々に日ごろから健康に関心を持っていただくため、「化研病院けんこう教室」を開催しています。第一回は七月二日(土)に行ない、三二五名の方が、第二回は九月八日(土)に四〇四名の方が、生活習慣病をテーマにした講演会や、メディカルチェックに足を運ばれました。

講演会のテーマは、第一回目が税所宏光病院長による「知っておきたい食と健康」糖尿病から消化器疾患まで」と、国枝武義循環器部長による「どうする？ 高血圧」暮らしの中の循環器病の治療」。

**臨床医学研究センター(千葉地区)
 化学療法研究所附属病院**

第二回目は小中千守副院長による「たばこ肺がん」、および伊藤聰一郎整形外科部長による「骨粗しょう症と骨折予防」でした。



メディカルチェック (骨密度測定)

先生方の講演は専門的ながら、パワーポイントで図や式を表示するなど、一般の方にも分かりやすい工夫がこらされていました。

また、血圧・体脂肪・骨密度などが測定できるメディカルチェックも好評でした。第二回では、講演に関連して、肺機能・血中酸素の検査も行なわれました。その他、講演を行なった医師による無料健康相談や、リニューアルオープンした本館の見学会、明治天皇の御学問所として使用された「恩賜館」の特別公開も実施され、長く地域に居住する方々も驚かれた様子でした。

当日の参加者からは「ぜひ次回も参加したい」「このような取り組みはとても評価できます」などの感想が多数寄せられており、今後も地域の方々の健康増進に少しでも役立つよう、定期的に開催していく予定です。(総務企画課 山崎由紀)



写真上：高木病院がんセンター外観
写真下：放射線治療装置リニアック

高木病院はこの「がんに負けることのない社会」を目指して一月のPET-CT稼働、外来化学療法室の開設に続いて、

がんセンターがオープン
 高木病院がんセンターが、地域のがん診療の拠点として九月にオープンしました。早期発見、早期治療につながるがんの検査、診断、治療を行い、がんを予防するとともに、がんで失われる命を救うために設立されました。

国が本年度に策定したがん対策基本計画に基づき、今、都道府県別のがん対策推進計画が作られています。がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんとうき合い、がんに負けることのない社会の実現を目指しています。十年以内に達成する全体目標として、がんによる死亡者の二〇%減少(七五歳未満の年齢調整死亡率)、全てのがん患者および家族の苦痛の軽減、ならびに療養生活の質の維持向上を掲げています。

高木病院はこの「がんに負けることのない社会」を目指して一月のPET-CT稼働、外来化学療法室の開設に続いて、

**臨床医学研究センター(九州地区)
 高木病院**

このたび放射線治療装置リニアックを導入し、手術療法、化学療法、放射線療法を総合的に行うがんセンターを設立したのです。

がんは早期に発見し、的確な治療をすれば、治すことのできる病気です。反面、だれもが一生に一度はがんを罹患する時代が到来するとも言われています。

高木病院は各種がんの集学的治療など高度ながん診療機能を実現し、地域医療機関との診療連携の推進と質の高いがん医療提供体制の確保などによって、がん診療連携拠点病院(申請中)の役割を果たしたいと考えています。

データ
 名称 高木病院がんセンター
 所在地 福岡県大川市酒見一四一・一一
 高木病院敷地内C棟
 TEL 〇九四四・八七・〇〇三八
 構造 鉄筋コンクリート地上三階建て
 延床面積 二四一・五八㎡
 一階 放射線治療室
 二階 PET-CTセンター
 三階 外来化学療法室
 竣工 平成一九年一月五日

(高木病院広報室 鶴田憲司)

**附属病院
 国際医療福祉大学熱海病院**

肺をみる会
 九月二日(金)、当院地下一階の大会議室において、第二回「東伊豆肺をみる会」が開催されました。

演題は左記の通りで、地域開業医の先生方や当院職員約三〇名の参加により、活発な意見交換が行われました。

- 一、最近の話題「高齢者肺癌の外科治療」 田口雅彦准教授(呼吸器外科)
 - 二、症例「気腫性肺に発生した肺癌の一切除例」 平田剛史講師(呼吸器外科)
 - 三、症例相談
- ※本研究会に關してのお問合せ先… 中村治彦教授(呼吸器外科)



DMポートでの実演

DMポートの集い
 九月二五日(火)、当院地下一階の大会議室において、DMポートの集いが開催されました。今回のテーマは「自宅でできる糖尿病体操とウォーキングのコツ」。

運動をすれば良いのかといった疑問点を、一八名の参加者とともに、実演を交えながら分かりやすく解説しました。

※DMポートに關してのお問合せ先… 原ちひろ(総務課)

院内学術懇話会

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の技術レベルの向上に役立てております。

九月二八日(金)、第二九回の院内学術懇話会が開催されました。演題は左記の通りで、約一〇〇名の職員が参加し、活発な意見交換が行われました。

- 一、当院で施行している心大血管疾患リハビリテーション
 伊藤真紀理学療法士、重政朝彦教授、小林俊一准教授、糟谷深医師、峯岸慎太郎医師(循環器内科)
- 二、死亡症例検討会・第二七回CPC
 司会 篠永正道教授(脳神経外科) (総務課)



院内学術懇話会

**臨床医学研究センター(東京地区)
 山王病院**

糖尿病教室を開催

近年、高齢化や生活習慣病患者の増加に伴い人々の関心が健康に向いてきています。山王病院では七月二八日(土)、医師、検査室、薬剤室、栄養室のスタッフによる糖尿病教室を「血糖コントロールの重要性」にテーマを絞って開催し、四〇名を超える方々にご参加頂きました。

始めに、この教室を主宰する内科副部長・糖尿病学会専門医の田嶋紀子医師が、血糖コントロールの重要性についてお話しました。何故コントロールが大事か、コントロールを怠るとどのような合併症や症状があるか、そして運動療法の大切さなどについて説明いたしました。続いて林京子検査技師が、糖尿病の検査には、空腹時血糖・ヘモグロビンA1c・尿糖・ブドウ糖負荷試験などがあることや、それらの検査の一つ一つを説明し、エコーを使用しての検査方法をスライド画像で紹介しました。筆者からは、食事療法に關し、血糖をコントロールするための食事方法、各自の基礎体重や摂取カロリーの計算方法、食事と運動の大切さについて、お話をいたしました。また、薬剤師の荒谷育子薬剤師は、薬物療法について、薬剤の種類と効果の違いを説明いたしました。



会場には、お持ち帰り頂けるよう糖尿病の冊子を各種用意し、休憩時間には検査室による血糖値の測定、栄養課より八〇キロカロリーのアイスの試食があり、それぞれのブースで皆さん楽しんで頂きました。(栄養課 加藤龍太郎)

一泊二日の糖尿病食体験コース
 山王病院では糖尿病食の体験入院を実施しております。ご自身の食事内容をこの機会に正しく見つめ直してみませんか。「正しい食生活」「三食バランスの取れた食事」「決められたカロリーのなかでいかに豪華な食生活を送れるか」を体験されてはいかがでしょうか。

●コース内容
 ①一日三食バランスの取れたお食事 (入院時、ご家族一名様分昼・夕のお食事サービス)
 *ご家族の宿泊はご遠慮願います。
 *原則ご入院は週末(土曜日入院、日曜日退院)となります。

②正しい知識を身につける為の栄養指導
 ●パック料金
 八万四千元(一泊二日)食事代+栄養指導(十部屋代)
 (内科・栄養室)



バランスの取れた夕食の献立

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー11月号

特集! 大学祭

11月号は大学の一大イベント大学祭を特集します。模擬店やステージはもちろん、栃木本校、小田原キャンパス、大川キャンパスそれぞれが個性あるプログラムで大いに盛り上がりました。このほか学生が経営するカフェの紹介や、熱海病院の糖尿病患者を対象にしたウォーキングラリーの様態など、1HWグループのトピックニュースもお伝えします。「国際医療福祉大学アワー」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.iuhw.ac.jp/movie.html>



風花祭。お手製のイラストで「いらっしゃい」(左)。ジャズ研究会の野外ステージ(右)。

国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクール

心臓理学療法士をめざして

～はじめての心臓の理学療法へのガイド～

心臓・血管系の理学療法は重要ですが、業務を担当する理学療法士が少ないのが現状です。この講座は基礎と実際を学ぶ、心臓理学療法士を目指す人のための初級講座です。

実際の、具体的な内容を多くし、実践できることを目標に置きます。



◀ 橋渡正夫教授 (国際医療福祉大学大学院、国際医療福祉大学病院リハビリテーション科)。

◆テレビ講座 ◆インターネット講座

医療福祉チャンネル774視聴者特典として、現在放送中の4受験講座をインターネットで無料配信しています。インターネットの視聴環境が整っている774視聴者の方は、この機会に是非VODをご体験ください。受講できるのは、1講座のみです。詳細は、お客さま係までお問い合わせください。

社会福祉士受験講座2008

身体上・精神的に障害のある人や高齢者の福祉に関する相談を受け、指導や助言、援助を行う社会福祉士は、厚生労働大臣認定の国家資格のひとつです。また、社会福祉士は社会的に注目を集める資格で、今後の社会に大きな役割を期待されています。



◀ 鈴木五郎教授 (国際医療福祉大学医療福祉学部長)

介護福祉士受験講座2008

介護の専門化が進むと同時に、介護保険制度改革、障害者自立支援法導入、医療制度改革など、様々な社会潮流の変化が、出題に反映されます。過去19回の出題傾向を徹底的に分析、効果的な学習が可能です。また、実技試験の過去問題が全て見られます。



◀ 第19回実技試験 (平成19年3月4日実施) の解説

●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

- 視聴料・・・月額2,100円 (このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります)
- 法人契約・・・5,250円
- IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 ((株)医療福祉総合研究所 お客さま係) Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com/

広報誌 IUHW 71号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市櫻津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕出版広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：米山真人ほか

編集：東京事務所出版広報室

お知らせ

IUHW Information

平成19年度の『IUHW』は下記の広報委員が担当しています。

【広報委員長】

高橋泰 (医療経営管理学科長)

【広報委員】

長田泉 (看護学科) 重久加代子 (看護学科) 潮見泰蔵 (理学療法学科) 藤田巨 (作業療法学科) 谷合信一 (言語聴覚学科) 藤田純子 (視機能療法学科) 菊地義信 (放射線・情報科学科) 横塚記代 (放射線・情報科学科) 丸木一成 (医療経営管理学科) 永野なおみ (医療福祉学科) 角南明彦 (薬学部) 齋藤智恵 (総合教育センター) 田中繁 (大学院) 高石和秀 (本校総務課) 高橋章子 (本校総務課) 村山京三 (小田原キャンパス・広報担当) 原田ちはる (九州・広報担当) 山内邦雄 (東京事務所出版広報室)